

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870104969
法人名	医療法人 順風会
事業所名	グループホーム 星岡
所在地	松山市星岡二丁目8-24
自己評価作成日	平成22年8月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成22年9月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

\* 有する機能を生かす支援に力を入れている。  
 \* 健康管理や医療面で医師、看護師との連携を密にし、安心して暮らせるよう配慮している。  
 \* 園児との交流、小中高校生の介護体験、実習生を積極的に受け入れている。  
 \* グループ内職員によるイベント(日本のお正月、ひな祭り、盆踊り、収穫祭、クリスマス会等)は本格的である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人代表は地域を大切にすることを第一に考えており、施設のホールを町内の行事の会場に貸したり、町内会の行事へ参加したり、地域との関係は良好である。家族会を年1回開催しており利用者と家族、職員の交流の場として有意義な会となっている。火災を想定しての避難訓練や地域の自主防災組織にも加入している。地域から避難場所になって欲しいとの要望もあり協議中である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	グループホーム星岡
(ユニット名)	花 組
記入者(管理者)	
氏 名	井上 美恵子
評価完了日	平成22年 8 月 25 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 職員全員で理念を考え、作成し、朝礼や職員会で唱和し、ケアの意識統一を図っている。</p> <p>(外部評価) 開設当初に職員全員で作成して以来、利用者を第一に考え理念を実践している。職員が意識付けできるよう職員会や朝礼時に唱和をしている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の敬老会には併設施設を利用して頂き、入居者も参加したり、近所の川掃除や町内盆踊りに参加したり、ふれあう機会が多い</p> <p>(外部評価) 法人代表が地域を大切にすることを第一に考えており、事業所の建物内のホールを町内の敬老会の会場に貸したり、町内会長が積極的に花見や盆踊りに誘ってくれるなど町内会とのよい関係が構築されている。また、移動喫茶を開いてくれるボランティアを受け入れており、利用者の楽しみの1つとなっている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 人材育成の貢献として実習生の受け入れを積極的に行ったり、随時、地域の方から認知症や高齢者介護の相談を受けている</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議に参加される多方面からの意見を取り入れ、サービスの向上に繋げている。	
			(外部評価) 家族や町内会長、民生委員等の参加があり、活発な意見交換がされているのが記録でうかがえる。2か月に1回の開催が定着しており、出された意見をサービスの向上に役立てている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議に参加された市担当者に終了後、個別で実地指導での改善点について相談し、アドバイス頂いたりしている。	
			(外部評価) 法人でグループホームは当事業所が初めてで、相談や質問等を市の高齢福祉課や介護保険課によくしている。また生活保護の利用者のことでケースワーカーと話し合ったり、障害を持っている利用者の対応を障害福祉課に問合せしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 人権を守ることを基本と考え、身体拘束の定義を掲示して「拘束をしないケア」を常に意識し、入居者の安全を守りつつ、自由な暮らしを支援している。	
			(外部評価) 内部や外部の研修に職員を参加させている。事務所に身体拘束の定義等を掲示し常に意識してケアに取り組めるよう配慮している。玄関の自動ドアは電源を切っているが、利用者の外出する際には職員と一緒に出る等の対応をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待に関する研修会に参加し、職員会等で勉強会をしている。また職員のストレスが溜まらないように話し合いをしたり、十分な休憩を取ったりしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 運営推進会議で講師を招き、勉強会を行う等理解を深めるようにしている。今後入居者に必要となれば、活用できるよう支援していく。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居の際、利用料、起こりうるリスクなど詳しく説明し、入居者や家族が納得した上で同意を得ている。また利用料金等の改定等の際にも詳しく説明し、同意を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関に意見箱を設置し、自由に意見を出して頂くようにしている。家族会や運営推進会議に参加して頂き、家族会ではご家族だけで話し合える場を設定し、自由に発言して頂ける雰囲気作りを心がけている。  (外部評価) 年1回、家族会を開催している。家族だけで話し合う時間を設け事業所への要望を出してもらったり、茶話会をしながら意見の出しやすい雰囲気の中で職員との話し合いをする等、有意義な会となっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 月一回職員会を行い、自由な意見や要望を出せる雰囲気作りを行い、働く意欲の向上や質の確保に繋げるようにしている。</p> <p>(外部評価) 職員からの提案でシフトの見直しをしたり、職員の追加雇用をする等、職員が働きやすいよう配慮をしている。普段の会話の中でも自由に意見を出すことができ、職員会には施設長や看護師長も出席し職員の意見を聞き取っている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 職場でのストレスや疲労を溜めないよう気分転換できる休憩室を確保したり、職員の資格取得に向けて情報提供したり、取得後は給与に反映され、向上心を持って働けるよう配慮している。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 事業所内外で行われる研修には代表の職員が参加し、職員会で発表し、全員が閲覧できるようにしている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) グループホーム協会や地域のグループホーム連絡会に所属し、他事業所との交流や研修会を行い、サービスの質の向上に努めている。</p>	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 入居される段階で本人と話し、生活状況の把握に努め、本人の気持ち、不安などを受け止め、安心して生活して頂けるよう心がけている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族のご苦労や今までのサービスの利用状況等これまでの経緯についてお話を聞き、本人の状態も考慮して、より良い生活ができるように一緒に考えるように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 初めて相談に来られた時にグループホームの利用前提に話を進めるのではなく、早急な対応に必要な相談者には可能な限り柔軟に対応し、場合によっては地域包括支援センターや他のサービス（ショートステイ、有料老人ホーム等）の利用に繋げたりしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 職員は敬う気持ちを忘れないよう心がけており、入居者に教えて頂くことも多く、労いの言葉や優しい言葉をかけて頂いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 希望に応じ日頃の状態をこまめに報告、相談し、一緒に本人を支えていくよう心がけている。ご家族が来訪時に他の入居者と将棋をして下さったり、玄関のお花をいつも気使って下さる方もおられる。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 毎朝、家族や友人2,3人に電話をかけている方がおられたり、毎月、奥様の月命日に娘さんとお墓参りに行かれる方もおられる。「〇〇さんの日」と称し馴染みの場所に出かけたり、馴染みの関係が継続できるよう支援している。  (外部評価) 利用者との何気ない会話から読み取ったり、家族から情報を聞き取ったりしている。職員が知り得た情報等は近況報告として家族にも知らせ共有している。また、利用者一人ひとりの日を設定して、行きたい場所や好きなものを食べに行く等ささやかな思いを達成できるよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 気の合う入居者同士で将棋をしたり、入居者が孤立しないように職員が調整役になり支援している。食事の時間は職員も一緒に会話し、楽しく過ごせるよう支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 長期入院などで契約が終了しても、お見舞いに行ったり、継続的な付き合いを行い、退院時には状態に応じて再入居して頂いたりしている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 会話の中から意向を聞き取ったり、会話の困難な入居者の思いは日頃の表情や行動から汲み取り、把握するように心がけている。	
			(外部評価) 日々の会話の中で思いや意向を聞いたり、行動や表情等から思いを汲みとったりしている。法人の別の施設を利用していた利用者が多いので、横のつながりで情報をもらうこともある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時に家族や関係者から聞き取ったり、日頃訪問される家族や親戚の方から情報を提供して頂きながら、これまでの暮らしの把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの心身状態や能力、体力の把握に努め、その人に合った過ごし方をして頂いている。経過記録の記入や職員間で気になること等、常に情報交換している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ご本人らしく暮らせるよう職員やご家族の気づきや意見を反映しながら本人本位の介護計画を作成している。「〇〇さんの日」に実現したい本人の希望を入れたりもしている	
			(外部評価) 家族が面会に来た時に要望や意見を聞き取る。担当の職員に聞き取りを行ったり、モニタリングの状況でケアマネがまとめている。	モニタリングの根拠を数値等の見える形で集約できるよう、記録の仕方を工夫する事を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 様子の変化、気づいたこと、気をつけたいこと等小さなことでもこまめに職員間で報告、記録し、アイデアを出し合っている。入居者に一番良いようにと常に検討し、介護計画の見直しに生かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 結婚式への参加、家族の葬儀への付き添い、入院時の付き添いの手配等、本人、家族の状況、要望に応じて臨機応変に対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 町内で行われるふれあい広場（バザー等）に参加したり、2ヶ月に1回定期的に行われるボランティアさんによる移動喫茶や月1回の園児との交流は入居者の楽しみとなっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 本人やご家族の希望するかかりつけ医となっている。 ご家族と協力して通院介助を行ったり、普段の様子や 変化を伝えるようにしている。往診に来てもらうケー スもある。</p> <p>(外部評価) 利用者や家族が希望する医療機関を受診するよう にしている。受診の結果や薬等の情報は家族と共有す ようにしている。家族が受診の付き添いをする場合は、血 圧手帳等の記録を渡している。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 日常のかかわりの中で体調や些細な表情の変化を見逃 さないように早期発見に努めている。異常があれば看 護師に報告し、早急な対応を行っている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院時には本人に関する情報を医療機関に提供し、時 期をみながらお見舞いに行き、回復状況等の情報交換 をしながら、速やかな退院支援に結び付けている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 入居時に入居者、家族に看取りや終末期における対応 について指針に基づいて説明し、その後も状況に応じて 主治医等を交えて話し合いながら、ホームとして可 能な限りの支援に努めている。</p> <p>(外部評価) 看取りの事例はないが、系列の病院が夜間の対応を日 中は施設内の看護師が対応する体制が整っているた め、利用者も家族も安心である。</p>	<p>どういった状態まで看れるのかを指針に明文化し、重度 化した利用者がより快適な生活が送れるよう、大規模 な法人の事業所ならではの利用者や家族の安心に結び つく支援体制が構築されることに期待したい。</p>

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 職員は応急手当講習を順次受講し、AEDの使用方法も理解している。夜間の緊急対応マニュアルを整備し、全職員に周知徹底している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回夜間想定で入居者と共に避難訓練を行っており、全職員が対応できるよう真剣に取り組んでいる。地域の協力体制については運営推進会議で協力をお願いしている。  (外部評価) 火災を想定しての避難訓練を施設全体で年2回行っている。地域の自主防災組織にも加入し、地域での広域災害の訓練に参加する予定である。また、地域から避難場所になってもらえないかとの申し出があり、現在地域と協議中である。備蓄を厨房の倉庫にしてあり、災害に備える意識は高い。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 理念に基づき「入居者を敬う気持ち」を忘れないよう心がけている。入居者の誇りやプライバシーを傷つけない誘導法や言葉かけ等を工夫している。  (外部評価) 個人情報等のファイルは鍵のかかるロッカーに入れ保管している。浴室はリビングのすぐ横にあるが、洗濯室、脱衣室、浴室になっているため外からは見えない。トイレは衣服を整えてからドアを開けるように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活でご本人の思いを尊重し、希望に添えるよう配慮している。言葉では十分に意思表示できない入居者であっても表情や全身での反応を注意深く受け止めながら本人の希望や好みを把握できるよう心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 基本的な一日の流れはあるが、一人ひとりの体調に配慮しながら、その日その時の本人の気持ちを尊重して、個別性のある対応に努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 朝はパジャマから洋服への着替え、洗顔、髪をとかす等、気持ちを新たにすることも含め、身だしなみには気をつけている。行事や日頃からも化粧やアクセサリ、スカーフ等、昔のご自分を少しでも取り戻せるよう支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) お米とぎ、煮干の頭とり、ブレンダーに植えてあるねぎ取り等職員と一緒に、食事も同じテーブルを囲み楽しく摂っている。食後はコップを洗ったり、テーブルを拭いたり片付けも積極的に参加して頂いている。 (外部評価) おかずは、デイサービス等と一緒に厨房で作られているが、御飯を炊くのと、味噌汁は事業所内で作っている。後片付け等できる利用者には無理のない程度で一緒にしてもらっている。支援の必要な利用者には職員が側に座り援助している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 管理栄養士が栄養を考えたメニューに基づいて調理し、一人ひとりの摂取量をチェックし、月1回の体重測定を目安とし健康に気を配っている。特に水分管理の必要な人には水分摂取量も記録している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 自分でできる方は声かけ見守りし、できない方に関しては毎食後のケアを行っている。月1回歯科衛生士による口腔ケア委員会に参加し指導を受けながら口腔ケアを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) おむつは極力使用せず、必要に応じてパットを使用する。尿意のない入居者にも時間を見計らって誘導することによりトイレで排泄できるよう支援している。失敗された場合も自尊心を傷つけないよう配慮している。</p> <p>(外部評価) 職員は、声かけをさりげなくしており自然な形でトイレ誘導し、おむつが必要なくなるように意識して取り組んでいる。チェック表を付け排泄の状況を確認し、把握している。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 排泄パターンを記録し、散歩などを行い、腸の働きを促すよう努めたり、食事やおやつに繊維質の多い食材や乳製品、寒天ゼリー等を提供したり、水分補給にも努め、なるべく自然排便ができるよう取り組んでいる。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 一人ひとりゆっくりと時間をかけて、会話をしたり、歌を歌ったりしてリラックスできるよう支援している。入浴を拒む方には言葉かけや対応を工夫し、チームプレーで入浴支援を試みている。</p> <p>(外部評価) 週3回の入浴を原則としているが、希望により柔軟に対応している。入浴を好まない利用者には時間や対応する職員を変える等し、タイミングを見ながら支援している。利用者が重度化傾向にあり、介護が必要な利用者が増えている。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) なるべく日中の活動を促し、その日の一人ひとりの体調や表情を考慮して、個別にソファやベッドでゆっくり休息がとれるよう支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人ひとりが服用する薬の内容は個人ファイルで全職員がいつでも確認できるようにしている。その人に合った服薬方法を取り、また病状の変化の確認に努め、看護師、医師に情報提供している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえよう、お願いできそうな仕事を頼み、感謝の気持ちを伝えるようにしている。日舞を習っていた方には、他入居者の誕生日には、羽織を着てお祝いに踊って頂いている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) お花見や夏祭り、動物園等の外出行事についてはボランティアの方や、ご家族に協力をお願いして時にはお弁当持参で出かける。「〇〇さんの日」と称し、入居者と相談しながら個別で、希望の場所に出かける支援をしている。	
			(外部評価) 月に1回、法人の車やタクシーを利用して近くの大型スーパーに買い物に行く。花見等季節のイベントには家族にも声をかけて出かけている。近くの川に鯉を見に行ったり花を見に行ったりしている。また、デイサービスの行事等にも参加している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 希望や能力に応じて、自分で管理している方もおられる。買い物に行く時にも自分で選んだり、支払ったりされることを支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 字が書ける方には年賀状を書くことを支援したり、毎朝、家族や友人に電話をかけることを日課としている方もおられる。いつでも電話できるよう公衆電話を設置している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) ひな祭り、お花見、菖蒲湯、七夕飾り、クリスマスツリー等季節を感じて頂ける行事や装飾を工夫したり、廊下壁面や居室には、行事や外出時の写真や利用者の作品を飾り、親しみやすい雰囲気作りを心がけている。</p> <p>(外部評価) 廊下には行事で撮った写真がコメントを添えて掲示されていたり、利用者の作品が飾られていたり華やかである。リビングにはソファが置かれテレビコーナー等もあり、冬場は畳を敷きこたつを設置できる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 食堂にソファを置き、仲の良い入居者同士がくつろいだり、一人で過ごしたりできるスペースを作っている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居室は全室個室になっており、使い慣れた家具、写真や思い出の品々を自由に持ち込み、入居者が居心地よく暮らせるよう工夫している。</p> <p>(外部評価) 居室には、使い慣れたテレビやテーブル、いす等が持ち込まれ、お気に入りの置物などが置かれている。ベッドやタンス等は備え付けを利用している。ほとんどの居室が南側にあるため、日当たりがよく心地がよい。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 利用者の身体状況に合わせ、車椅子を改造したり、一人ひとりのわかる力を見極め、必要な目印をつけたり、家具や物の配置に配慮している。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870104969
法人名	医療法人 順風会
事業所名	グループホーム 星岡
所在地	松山市星岡二丁目8-24
自己評価作成日	平成22年8月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成22年9月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

\* 有する機能を生かす支援に力を入れている。  
 \* 健康管理や医療面で医師、看護師との連携を密にし、安心して暮らせるよう配慮している。  
 \* 園児との交流、小中高校生の介護体験、実習生を積極的に受け入れている。  
 \* グループ内職員によるイベント(日本のお正月、ひな祭り、盆踊り、収穫祭、クリスマス会等)は本格的である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人代表は地域を大切にすることを第一に考えており、施設のホールを町内の行事の会場に貸したり、町内会の行事へ参加したり、地域との関係は良好である。家族会を年1回開催しており利用者と家族、職員の交流の場として有意義な会となっている。火災を想定しての避難訓練や地域の自主防災組織にも加入している。地域から避難場所になって欲しいとの要望もあり協議中である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム星岡

(ユニット名) 星 組

記入者(管理者)  
氏名 井上 美恵子

評価完了日 平成22年 8月 25日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 職員全員で理念を考え、作成し、朝礼や職員会で唱和し、ケアの意識統一を図っている。</p> <p>(外部評価) 開設当初に職員全員で作成して以来、利用者を第一に考え理念を実践している。職員が意識付けできるよう職員会や朝礼時に唱和をしている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の敬老会には併設施設を利用して頂き、入居者も参加したり、近所の川掃除や町内盆踊りに参加したり、ふれあう機会が多い</p> <p>(外部評価) 法人代表が地域を大切にすることを第一に考えており、事業所の建物内のホールを町内の敬老会の会場に貸したり、町内会長が積極的に花見や盆踊りに誘ってくれるなど町内会とのよい関係が構築されている。また、移動喫茶を開いてくれるボランティアを受け入れており、利用者の楽しみの1つとなっている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 人材育成の貢献として実習生の受け入れを積極的に行ったり、随時、地域の方から認知症や高齢者介護の相談を受けている</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議に参加される多方面からの意見を取り入れ、サービスの向上に繋げている。	
			(外部評価) 家族や町内会長、民生委員等の参加があり、活発な意見交換がされているのが記録でうかがえる。2か月に1回の開催が定着しており、出された意見をサービスの向上に役立てている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議に参加された市担当者に終了後、個別で実地指導での改善点について相談し、アドバイス頂いたりしている。	
			(外部評価) 法人でグループホームは当事業所が初めてで、相談や質問等を市の高齢福祉課や介護保険課によくしている。また生活保護の利用者のことでケースワーカーと話し合ったり、障害を持っている利用者の対応を障害福祉課に問合せしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 人権を守ることを基本と考え、身体拘束の定義を掲示して「拘束をしないケア」を常に意識し、入居者の安全を守りつつ、自由な暮らしを支援している。	
			(外部評価) 内部や外部の研修に職員を参加させている。事務所に身体拘束の定義等を掲示し常に意識してケアに取り組めるよう配慮している。玄関の自動ドアは電源を切っているが、利用者の外出する際には職員と一緒に出る等の対応をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待に関する研修会に参加し、職員会等で勉強会をしている。また職員のストレスが溜まらないように話し合いをしたり、十分な休憩を取ったりしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 運営推進会議で講師を招き、勉強会を行う等理解を深めるようにしている。今後入居者に必要となれば、活用できるよう支援していく。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居の際、利用料、起こりうるリスクなど詳しく説明し、入居者や家族が納得した上で同意を得ている。また利用料金等の改定等の際にも詳しく説明し、同意を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関に意見箱を設置し、自由に意見を出して頂くようにしている。家族会や運営推進会議に参加して頂き、家族会ではご家族だけで話し合える場を設定し、自由に発言して頂ける雰囲気作りを心がけている。  (外部評価) 年1回、家族会を開催している。家族だけで話し合う時間を設け事業所への要望を出してもらったり、茶話会をしながら意見の出しやすい雰囲気の中で職員との話し合いをする等、有意義な会となっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 月一回職員会を行い、自由な意見や要望を出せる雰囲気作りを行い、働く意欲の向上や質の確保に繋げるようにしている。</p> <p>(外部評価) 職員からの提案でシフトの見直しをしたり、職員の追加雇用をする等、職員が働きやすいよう配慮をしている。普段の会話の中でも自由に意見を出すことができ、職員会には施設長や看護師長も出席し職員の意見を聞き取っている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 職場でのストレスや疲労を溜めないよう気分転換できる休憩室を確保したり、職員の資格取得に向けて情報提供したり、取得後は給与に反映され、向上心を持って働けるよう配慮している。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 事業所内外で行われる研修には代表の職員が参加し、職員会で発表し、全員が閲覧できるようにしている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) グループホーム協会や地域のグループホーム連絡会に所属し、他事業所との交流や研修会を行い、サービスの質の向上に努めている。</p>	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 入居される段階で本人と話し、生活状況の把握に努め、本人の気持ち、不安などを受け止め、安心して生活して頂けるよう心がけている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族のご苦労や今までのサービスの利用状況等これまでの経緯についてお話を聞き、本人の状態も考慮して、より良い生活ができるように一緒に考えるように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 初めて相談に来られた時にグループホームの利用前提に話を進めるのではなく、早急な対応に必要な相談者には可能な限り柔軟に対応し、場合によっては地域包括支援センターや他のサービス（ショートステイ、有料老人ホーム等）の利用に繋げたりしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 職員は敬う気持ちを忘れないよう心がけており、入居者に教えて頂くことも多く、労いの言葉や優しい言葉をかけて頂いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 希望に応じ日頃の状態をこまめに報告、相談し、一緒に本人を支えていくよう心がけている。ご家族が来訪時に他の入居者と将棋をして下さったり、玄関のお花をいつも気使って下さる方もおられる。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 毎朝、家族や友人2,3人に電話をかけている方がおられたり、毎月、奥様の月命日に娘さんとお墓参りに行かれる方もおられる。「〇〇さんの日」と称し馴染みの場所に出かけたり、馴染みの関係が継続できるよう支援している。  (外部評価) 利用者との何気ない会話から読み取ったり、家族から情報を聞き取ったりしている。職員が知り得た情報等は近況報告として家族にも知らせ共有している。また、利用者一人ひとりの日を設定して、行きたい場所や好きなものを食べに行く等ささやかな思いを達成できるよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 気の合う入居者同士で将棋をしたり、入居者が孤立しないように職員が調整役になり支援している。食事の時間は職員も一緒に会話し、楽しく過ごせるよう支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 長期入院などで契約が終了しても、お見舞いに行ったり、継続的な付き合いを行い、退院時には状態に応じて再入居して頂いたりしている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 会話の中から意向を聞き取ったり、会話の困難な入居者の思いは日頃の表情や行動から汲み取り、把握するように心がけている。  (外部評価) 日々の会話の中で思いや意向を聞いたり、行動や表情等から思いを汲みとったりしている。法人の別の施設を利用していた利用者が多いので、横のつながりで情報をもらうこともある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時に家族や関係者から聞き取ったり、日頃訪問される家族や親戚の方から情報を提供して頂きながら、これまでの暮らしの把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの心身状態や能力、体力の把握に努め、その人に合った過ごし方をして頂いている。経過記録の記入や職員間で気になること等、常に情報交換している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ご本人らしく暮らせるよう職員やご家族の気づきや意見を反映しながら本人本位の介護計画を作成している。「〇〇さんの日」に実現したい本人の希望を入れたりもしている	
			(外部評価) 家族が面会に来た時に要望や意見を聞き取る。担当の職員に聞き取りを行ったり、モニタリングの状況でケアマネがまとめている。	モニタリングの根拠を数値等の見える形で集約できるよう、記録の仕方を工夫する事を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 様子の变化、気づいたこと、気をつけたいこと等小さなことでもこまめに職員間で報告、記録し、アイデアを出し合っている。入居者に一番良いようにと常に検討し、介護計画の見直しに生かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 結婚式への参加、家族の葬儀への付き添い、入院時の付き添いの手配等、本人、家族の状況、要望に応じて臨機応変に対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 町内で行われるふれあい広場（バザー等）に参加したり、2ヶ月に1回定期的に行われるボランティアさんによる移動喫茶や月1回の園児との交流は入居者の楽しみとなっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人やご家族の希望するかかりつけ医となっている。 ご家族と協力して通院介助を行ったり、普段の様子や 変化を伝えるようにしている。往診に来てもらうケー スもある。	
			(外部評価) 利用者や家族が希望する医療機関を受診するよう にしている。受診の結果や薬等の情報は家族と共有す ようにしている。家族が受診の付き添いをする場合は、 血圧手帳等の記録を渡している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 日常のかかわりの中で体調や些細な表情の変化を見逃 さないように早期発見に努めている。異常があれば看 護師に報告し、早急な対応を行っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には本人に関する情報を医療機関に提供し、時 期をみながらお見舞いに行き、回復状況等の情報交換 をしながら、速やかな退院支援に結び付けている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時に入居者、家族に看取りや終末期における対応 について指針に基づいて説明し、その後も状況に応じて 主治医等を交えて話し合いながら、ホームとして可 能な限りの支援に努めている。	
			(外部評価) 看取りの事例はないが、系列の病院が夜間の対応を日 中は施設内の看護師が対応する体制が整っているた め、利用者も家族も安心である。	どういった状態まで看れるのかを指針に明文化し、重度 化した利用者がより快適な生活が送れるよう、大規模 な法人の事業所ならではの利用者や家族の安心に結び つく支援体制が構築されることに期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 職員は応急手当講習を順次受講し、AEDの使用方法も理解している。夜間の緊急対応マニュアルを整備し、全職員に周知徹底している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回夜間想定で入居者と共に避難訓練を行っており、全職員が対応できるよう真剣に取り組んでいる。地域の協力体制については運営推進会議で協力をお願いしている。  (外部評価) 火災を想定しての避難訓練を施設全体で年2回行っている。地域の自主防災組織にも加入し、地域での広域災害の訓練に参加する予定である。また、地域から避難場所になってもらえないかとの申し出があり、現在地域と協議中である。備蓄を厨房の倉庫にしてあり、災害に備える意識は高い。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 理念に基づき「入居者を敬う気持ち」を忘れないよう心がけている。入居者の誇りやプライバシーを傷つけない誘導法や言葉かけ等を工夫している。  (外部評価) 個人情報等のファイルは鍵のかかるロッカーに入れ保管している。浴室はリビングのすぐ横にあるが、洗濯室、脱衣室、浴室になっているため外からは見えない。トイレは衣服を整えてからドアを開けるように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活でご本人の思いを尊重し、希望に添えるよう配慮している。言葉では十分に意思表示できない入居者であっても表情や全身での反応を注意深く受け止めながら本人の希望や好みを把握できるよう心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 基本的な一日の流れはあるが、一人ひとりの体調に配慮しながら、その日その時の本人の気持ちを尊重して、個別性のある対応に努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 朝はパジャマから洋服への着替え、洗顔、髪をとかす等、気持ちを新たにすることも含め、身だしなみには気をつけている。行事や日頃からも化粧やアクセサリ、スカーフ等、昔のご自分を少しでも取り戻せるよう支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) お米とぎ、煮干の頭とり、ブレンダーに植えてあるねぎ取り等職員と一緒に、食事も同じテーブルを囲み楽しく摂っている。食後はコップを洗ったり、テーブルを拭いたり片付けも積極的に参加して頂いている。 (外部評価) おかずは、デイサービス等と一緒に厨房で作られているが、御飯を炊くのと、味噌汁は事業所内で作っている。後片付け等できる利用者には無理のない程度で一緒にしてもらっている。支援の必要な利用者には職員が側に座り援助している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 管理栄養士が栄養を考えたメニューに基づいて調理し、一人ひとりの摂取量をチェックし、月1回の体重測定を目安とし健康に気を配っている。特に水分管理の必要な人には水分摂取量も記録している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 自分でできる方は声かけ見守りし、できない方に関しては毎食後のケアを行っている。月1回歯科衛生士による口腔ケア委員会に参加し指導を受けながら口腔ケアを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) おむつは極力使用せず、必要に応じてパットを使用する。尿意のない入居者にも時間を見計らって誘導することによりトイレで排泄できるよう支援している。失敗された場合も自尊心を傷つけないよう配慮している。</p> <p>(外部評価) 職員は、声かけをさりげなくしており自然な形でトイレ誘導し、おむつが必要なくなるように意識して取り組んでいる。チェック表を付け排泄の状況を確認し、把握している。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 排泄パターンを記録し、散歩などを行い、腸の働きを促すよう努めたり、食事やおやつに繊維質の多い食材や乳製品、寒天ゼリー等を提供したり、水分補給にも努め、なるべく自然排便ができるよう取り組んでいる。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 一人ひとりゆっくりと時間をかけて、会話をしたり、歌を歌ったりしてリラックスできるよう支援している。入浴を拒む方には言葉かけや対応を工夫し、チームプレーで入浴支援を試みている。</p> <p>(外部評価) 週3回の入浴を原則としているが、希望により柔軟に対応している。入浴を好まない利用者には時間や対応する職員を変える等し、タイミングを見ながら支援している。利用者が重度化傾向にあり、介護が必要な利用者が増えている。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) なるべく日中の活動を促し、その日の一人ひとりの体調や表情を考慮して、個別にソファやベッドでゆっくり休息がとれるよう支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人ひとりが服用する薬の内容は個人ファイルで全職員がいつでも確認できるようにしている。その人に合った服薬方法を取り、また病状の変化の確認に努め、看護師、医師に情報提供している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえるよう、お願いできそうな仕事を頼み、感謝の気持ちを伝えるようにしている。日舞を習っていた方には、他入居者の誕生日には、羽織を着てお祝いに踊って頂いている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) お花見や夏祭り、動物園等の外出行事についてはボランティアの方や、ご家族に協力をお願いして時にはお弁当持参で出かける。「〇〇さんの日」と称し、入居者と相談しながら個別で、希望の場所に出かける支援をしている。	
			(外部評価) 月に1回、法人の車やタクシーを利用して近くの大型スーパーに買い物に行く。花見等季節のイベントには家族にも声をかけて出かけている。近くの川に鯉を見に行ったり花を見に行ったりしている。また、デイサービスの行事等にも参加している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 希望や能力に応じて、自分で管理している方もおられる。買い物に行く時にも自分で選んだり、支払ったりされることを支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 字が書ける方には年賀状を書くことを支援したり、毎朝、家族や友人に電話をかけることを日課としている方もおられる。いつでも電話できるよう公衆電話を設置している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) ひな祭り、お花見、菖蒲湯、七夕飾り、クリスマスツリー等季節を感じて頂ける行事や装飾を工夫したり、廊下壁面や居室には、行事や外出時の写真や利用者の作品を飾り、親しみやすい雰囲気作りを心がけている。</p> <p>(外部評価) 廊下には行事で撮った写真がコメントを添えて掲示されていたり、利用者の作品が飾られていたり華やかである。リビングにはソファが置かれテレビコーナー等もあり、冬場は畳を敷きこたつを設置できる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 食堂にソファを置き、仲の良い入居者同士がくつろいだり、一人で過ごしたりできるスペースを作っている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居室は全室個室になっており、使い慣れた家具、写真や思い出の品々を自由に持ち込み、入居者が居心地よく暮らせるよう工夫している。</p> <p>(外部評価) 居室には、使い慣れたテレビやテーブル、いす等が持ち込まれ、お気に入りの置物などが置かれている。ベッドやタンス等は備え付けを利用している。ほとんどの居室が南側にあるため、日当たりがよく心地が良い。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 利用者の身体状況に合わせ、車椅子を改造したり、一人ひとりのわかる力を見極め、必要な目印をつけたり、家具や物の配置に配慮している。</p>	